

1) A: ボールの大きさを考えて、不等号を入れる。  
 2) B: ボールは同じもので、大きさも同じだと説明し、等号を入れさせる。  
 3) 三者間の比較が受け入れられない場合は、o:p:p;q、r:ss:tの二者間の比較と考える。

a) 三者間の比較は認知の枠組みとして重要だが、子どもにとっては難しい。二者はリレーシヨン、三者はシステム。  
 b) 三者の大小関係は推後律の先行体験としても重要。  
 c) 等号の使用。アナログ的な大小の方が分かりやすい。(厳密には線の大きさとして表現はできない。)

Date  
 Note  
 評



A



o



p

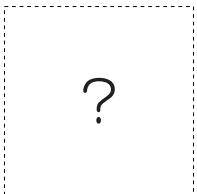


q

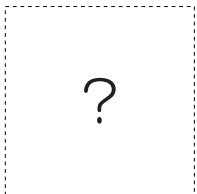
B



r



s



t

?に <, >, = を  
 入れよう。

